



2024 年第 1 回定例会で、公明党神奈川県議団を代表して、黒岩祐治知事に対して、防災対策などについて提案や質問を行いました。

大規模災害に備え、衛星通信システムを配備

今回の能登半島地震における課題を踏まえ、デジタル技術の活用による災害対策の強化に取り組むよう提案しました。

これに対し、知事は、有線ケーブルが切断された状況でも利用可能な衛星通信システムを導入すると答弁。

具体的には、固定式の衛星通信システムを 2 台、移動式を 25 台の計 27 台を、県の施設に配備する計画です。

固定式は、災害対策本部を設置する県庁の西庁舎と、災害活動中央基地となる総合防災センターに配備し、災害対策本部における通信機能を強化。移動式は、災害発生時に、地域の孤立や通信の断絶が発生した地域に速やかに配備できるよう、4 つの地域県政総合センターと総合防災センターの計 5 箇所に 5 台ずつ配備する予定です。



脳脊髄液減少症の周知徹底を図れ

脳脊髄液減少症は交通事故やスポーツによる衝撃などで、脳脊髄液が漏れ出し頭痛や倦怠感等の症状を引き起こす病気。不登校となり、起立性調節障害と診断される子どもの中には、脳脊髄液減少症が原因となっていた場合もあります。

こうした病気があることを改めて児童生徒の保護者や学校関係者を含め、県民に広く周知すべきであると提案しました。



知事は、症状があった際に「脳脊髄液減少症かもしれない」と気づいていただけるよう、情報発信を強化すると答弁。

具体的には、ホームページの内容をさらに充実させるとともに、専門家の話や患者の生の声を伝えやすい動画の作成などについても検討。また、県教育委員会でも、2024 年度、新たに専門家を講師として招き、小学校から高校までの教職員を対象とした研修を実施する方針です。